

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173201102		
法人名	有限会社関根		
事業所名	グループホーム関根塾		
所在地	埼玉県比企郡小川町奈良梨346-1		
自己評価作成日	平成22年11月14日	評価結果市町村受理日	平成22年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内や散歩道等で身近に四季折々の草花を楽しめる環境に立地しています。散歩や畑仕事、花壇の手入れ、動物の世話など利用者様の嗜好に合わせた活動を大切にしています。利用者及び家族様の希望があれば終の棲家として利用できる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

収穫の終わった田園風景に囲まれ、工場の広い敷地内に平屋のホームがある。屋内は玄関に続き段差のない床、リビングのテーブルを囲んで、入居者は静かに過ごし、職員の姿が常に見える距離感が安心感につながっている。主治医との連携が良好で毎日のように様子を見に来て下さり、入居者・家族・職員にとって心強い存在になっている。その連携でターミナルケアに取り組み易い環境。職員は自己評価を通して、日々のケアを見直す切っ掛けとし努力し、目標を持ち福祉関係の資格取得を目指している。管理者は細かな観察記録を活かしケアに反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用研修時・月1回の職員会議の場で、当事業所の理念・方針を理解させ業務に活かすよう教育している。また、ほぼ毎日職員一人ひとりと会話をし思考のズレを修正している。	日々のケアに理念が反映されるように、採用時基本理念を良く話し、新しい気持ちで取り組みが出来るようにしている。介護度に関わらず、職員は言葉掛けに注意し合い、達成に向けて努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し、利用者の負担を考慮しながら行事等への参加をしている。また、家族の了解を得て、近隣住民に利用者を紹介している。	自治会へ加入し、町会の行事や清掃等入居者の容態に合わせ参加している。散歩の途中知人宅へ寄り道する方や、新たな入居者は、家族の了解を得て地域の方に紹介し、地域の方との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事参加時等に当事業所の業務内容や認知症に対する理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成メンバーとは、普段から頻りに顔を合わせるため、その都度意見の交換を行っている。年に4回開催している会議では運営や処遇の課題を報告し、話し合っている。	会議の開催実績は少ないが、・町の職員・家族・協力医・地域住民の方の参加を得て開催、現在の取り組み内容を報告し、インフルエンザ・火災の対策等の意見を頂いている。年6回の開催実施の準備を進めている。	地域密着型として、地域の方と一緒に支え合う事が大切。開催し易いように行事に合わせたり、幅を広げたメンバーの変更を工夫し、さらに地域の理解と支援を得られるよう期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り合っている。利用者の入退居に関しても担当者に報告している。	市町村担当者とは、連携があり事業所の実情を理解して頂き交流がある。ヒヤリハット事例を報告、家族への対応等に協力を頂き、その後も本人・家族との良好な関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での拘束行為は禁止されている。就業規則により拘束や虐待行為を行った者は懲戒解雇と定めている。拘束に該当するか微妙な事例は管理者が家族と話し合い判断している。	マニュアルに沿った研修会を実施し、予測されるリスクを常に継続して意識するように心がけている。医療面で必要が生じた場合は、主治医が直接家族へ説明し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、虐待の防止について理解を深めている。また、職員会議等で話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し制度の理解に努めている。現在までに活用が必要な利用相談はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を音読し、相方に不利益がないように確認しながら行っている。また、医療連携・個人情報取扱い等は個別に同意書を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な機会を設けなくても、いつでも意見や不満を言える状況である。主治医が週4、5日は事業所を訪問しているので利用者の相談にのっていただいている。	家族とのコミュニケーションは取り易い雰囲気、要望や不満をお聴きし反映させている。日々の暮らしを記録・生活の中でリハビリをしたことで、入居時と見違えるほど回復なされた方があり、家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が毎日出勤しているため、職員はいつでも意見や提案を言える環境である。また、毎月の職員会議においても意見の交換を行っている。	日常の関わりの中で会話や体調を見逃さないようにし、職員間の意見交換や提案を受け入れ、まず実行してみる事を進め、改善につなげるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況に合わせた労働条件を提示している。資格取得の支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な研修には出席出来るように手配している。事業所内では月1回の職員会議の中で各種マニュアルを用いてテーマ毎に勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の研修に参加することにより、地域の同業者と交流やネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に話を聞く機会を設けている。また、入居後は考え方が変わることもあるので、日々の生活の中で引き出す努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に話を聞く機会を設けている。また、入居後も面会時等に話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所は単体のグループホームなのでグループホーム利用の対応しか行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、洗濯物をたたんだり日常生活を共にすることで同じ目線で話し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況等を理解して頂くため、口頭で説明したり、文書で通知したりし、情報を共有することにより一緒に支援していることを忘れないようにしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解が得られれば、友人と電話で話しをしてもらったり、面会に来ていただけるよう支援している。また、手紙のやり取りが出来るよう支援している。	友人・知人への電話や手紙、家族向けの年賀状に顔写真を添え、視力の悪い方は代筆で手紙を出し喜ばれている。地域の隣同士の二人が偶然に入居し再会し、馴染みの関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会等を通じ、一人ひとりの触れ合いの時間を設けているが、基本的には本人の判断に任せ無理強いはいしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了となる場合は、利用者死亡となるので関係の継続は不可能である場合が多い。(契約は終了したが、度々訪問し協力してくれる家族もいる)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族の意向を確認し入居後の生活に反映させている。なるべく利用者自身のペースで生活出来るよう支援している。ただし、共同生活に支障があるような希望や行動は受け入れていない。	日常のお世話の中から意向の把握に努めている。又入居時に家族や関係者から、生活歴や趣味をお聞きし反映に努め、安心して楽しく暮らせるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者及び家族より確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況や健康状態等は記録用紙に記入し、一目で把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医や職員の意見に基づき介護計画を作成している。	職員会議で担当者の意見をくみ上げ、関わった他の職員の異なる意見・見方も大切に計画作成。面会時の家族の気づきに服装の見直し、好きな帽子をかぶせることで表情が変わる等、意見・アイデアを取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録を記入しているので、誰もが状況を把握できるようになっている。また、介護計画の見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての機能を活かした支援をしている。 入退院・通院・買物等、事業所として出来る範囲の協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向にもよるが、必要な時は協力していただけるようネットワーク作りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所主治医への変更の了解を得ている。また、円滑かつ適切な医療が受けられるように入居前のかかりつけ医より情報提供をしていただいている。	入居時に協力医への変更を希望され、主治医との良好な関係が続いている。医療面で変化があった時は、主治医が家族の代表者に説明し理解を得るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に医師と相談できる体制を整えている。また、看護職員の意見を取り入れながら日頃のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の関係機関に入院設備があり、連携、情報交換はいつでも行える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意志を確認し、同意書を作成している。また、急性期においても再度意思の確認を行い支援方法を決めている。	重度化・看取り・医療との連携の指針があり、入居時に本人・家族の同意を得て、段階を追って確認し合い、主治医・訪問看護ステーションとの連携で、これまでに幾人もの看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え対応マニュアルを作成している。また、責任の所在を明確にするため、必ず管理者または主治医と連絡を取り指示を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、災害時に備えた避難訓練を実施している。工業地帯にあるため隣接する会社、地域住民にも参加を呼び掛け関係構築に努めている。	事業所が工場地内にあり、隣接の民家は離れている為、火事を出さない事を重点に日々努力。年2回の消防署指導の訓練を受け、入居者と一緒に実践的訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを傷つけないような声掛けを心掛けています。また、記録や会話等にも注意を払いイニシャルを用いて個人が特定できないよう配慮している。	尊厳とプライバシーの確保は対人援助の基本と心得、職員採用の際1日見学して貰い、懇切に指導している。トイレ・浴室にイニシャル入りの手順表、業務日誌はイニシャルで個人記録している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に合わせて自己決定の機会を作っている。何を希望しているのか介護者側も分からないことがあるため質問形式にし希望を引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一つ一つの行動に時間が掛かったとしても、その方の時間を大切に、見守りしている。食事の時間は決まっているが他の時間は自由である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容に来ていただいている。髪形等に関しては、本人と相談しながら希望に添っていただくようにしている。起床時の着替えの際にも本人の希望する洋服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備をすることが困難な方が多いため、出来る範囲内で、手伝っていただいている(テーブル拭き等)。また、食事は同じテーブルで同じ物を一緒に食べ、会話を楽しみながら食事している。	重度介護者が増え、調理を一緒にする事は困難、食事制限・刻み食の方の食事調理・味付けを吟味し提供、ひな祭り・お節料理を見ると懐かしい味がよみがえり、何時もと違った表情が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量を記録し、それに基づいて食事量を調整している。また、身体状況・健康状態に合わせた支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいを習慣づけて頂くため声掛け誘導を行っている。また、自ら行うことの出来ない方には口腔内ケアを実施している。場合によっては、訪問歯科の利用もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がリハパンやオムツを必要としている方である。排泄時間・排泄量等を記録している。また、記録を参考にトイレでの排泄が可能になるように支援している。	排泄記録表を見て、排泄を促し日中は、布パンツ・リハビリパンツで過ごせるように支援。職員は失禁の対応を当然の事と受け止め、慌てず物静かに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方が多いため、食事の工夫や日常生活の中で身体を動かしていただけるように支援している。また、主治医と相談し便秘薬での調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来るように朝から風呂を用意している。基本的に風呂嫌いな方が多いため、衛生管理上の観点より最低限入浴しなくてはならない日を決めている。	希望に合わせた入浴支援を行い、入浴を拒否する人は、衛生面を考慮しタイミングや言葉かけに一工夫しながら実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に本人の希望を考慮し休息の時間を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、個人毎にファイルを保管し、職員が常に内容を確認できるようにしている。また、変更が生じた場合には必ず連絡ノートに内容を記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、行うことの出来る作業が違うため、それらのことを把握した上で、自然と役割を持っていただくようにしている。 (動物の世話、植物の世話等それぞれの好みや能力に合わせたことをやっていたい)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添う形ではあるが外へ出ることは可能である。ただし、外へ出ようとする利用者が少ないため、こちらから誘うことが多い。天気の良い日はなるべく散歩に出掛けられるように支援している。	お天気の良い日は、あぜ道などを散歩して外気を浴びるようにしている。以前出来ていた外食の支援も、外出のリスクが予測されるため、現在は支援が困難になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持に関しては、事業所管理として いる。買い物に行った時には、自身で支払っ ていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、いつでも利用可 能である。また、手紙のやり取りを行う方 には職員がサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花等を置いたり、居間にも 季節を感じるものを置いたりしている。(鏡も ち、クリスマスツリー、季節毎の花、七夕飾 り等)	共用の空間は、いずれも清潔で採光が良 い。特に屋内は、午前中に換気を心掛け匂 いがしないように努力している。手作りのクリ スマスツリーは季節感があり、入居者は静か にゆったりすごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	居間にはソファ、庭にはベンチを配置し、 自由にくつろげる状態になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	基本的には自宅で使用していた物を持込ん でもらい、利用者一人ひとりの希望や趣向 に合った居室づくりに配慮している。	個々の持ち込み品を居心地良く配置し、使い 慣れたベッド・寝具を用いている。窓からの眺 は良く、居室入口の暖簾は一人一人の目印 になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	トイレは目立つ表示をしている。居室に表札 だけではなく、色やデザインの違う暖簾をか けて目印になるようにしている。		